



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 田立 理／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

全消協第50回研究集会

1日目は参集、2日目はウェブ開催

2022年度第50回研究集会が5月13日（金）、14日（土）の2日間の日程で開催された。1日目は2年ぶりとなる参集形式とし、自治労会館にて参加者47人で、2日目は1日目と同内容で、ウェブ形式で、参加者94人での開催となった。

冒頭、須藤洋典会長が主催者を代表し、「研究集会の意義は現在、職場でどのような問題が起きているかを把握し、これからのような問題が起きそうかを予測し、どのように対応していくかの準備をすることである」と述べた。

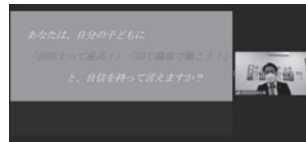
その後、長野県の上田市消防職員協議会と岡山県の新見市消防職員協議会が単協活動の事例発表を行った。



1日目のグループ発表



上田市消協による単協発表（2日目）



新見市消協による単協発表（2日目）

新見市消防職員協議会は、「新見市消防職員協議会の活動

が充実していること、福祉厚生面から実施することにした」との発表があった。

リットをまずは実施することにした」との発表があった。

給規定を設けるなどし、協議会に入会するメ

を担う30代、40代の退会が継続的に見られる状況があることか

ら、「助成金支給規定を設けるなどし、協議会に入会するメ

を担う30代、40代の退会が継続的に見られる状況があることか

ら、「助成金支給規定を設けるなどし、協議会に入会するメ

を担う30代、40代の退会が継続的に見られる状況があることか

ら、「助成金支給規定を設けるなどし、協議会に入会するメ

を担う30代、40代の退会が継続的に見られる状況があることか

が充実していること、福祉厚生面から実施することにした」との発表があった。

リットをまずは実施することにした」との発表があった。

10月（第5波直後）の2度、全消協としても協力している。

第2波期では、資機材の不足や感染に対する不安が現場から挙げられていたが、第5波期直後では

感染者が増加したことにより、搬送困難事例の増加に伴う負担の声が多く挙げられ、第2波期よりも

救急活動に関わる不安やストレスが増大していることが報告された。

提言として、①感染防護資機材の改良・充実、②病院選定と搬送に係る負担の解消、③感染危険手当の更なる充実、④PCR検査とワクチンの優先接種、⑤救急活動に携わる消防職員の立場の向上（一般市民にも救急活動に理解を）の5点が挙げられた。

グループワークでは、全消協幹事が各グループの進行を務め、①協議会活動の課題と対策、②定年引上げに伴う消防職場の課題と対策の2つの課題について議論し、

参加者は学習を深めた。協議会がない頃の職場環境を知らない世代が増えるとともに、それが改善されたことで現状に満足し、協議会の必要性を自ら感じる

ことが難しくなってきた。協議会の魅力や活動の必要性を理解してもらう場を設けることが必要である。

定年引上げについては、消防本部の規模や年齢構成によって、課題は様々である。定年引上げが実施される前の今だからこそ、より健康で豊かな職場環境を作ってい

くため、労働者である私たちが団結し、消防職場における今後の働き方を研究し、声を上げていかなければならない。

本研修会開催にあたって、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、参集人数を絞り、翌日にウェブ開催をするという新たな取り組みを行った。今後も、会員

がより参加しやすい開催方法を模索したい。

くため、労働者である私たちが団結し、消防職場における今後の働き方を研究し、声を上げていかなければならない。

本研修会開催にあたって、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、参集人数を絞り、翌日にウェブ開催をするという新たな

取り組みを行った。今後も、会員がより参加しやすい開催方法を模索したい。

くため、労働者である私たちが団結し、消防職場における今後の働き方を研究し、声を上げていかなければならない。

本研修会開催にあたって、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、参集人数を絞り、翌日にウェブ開催をするという新たな

取り組みを行った。今後も、会員がより参加しやすい開催方法を模索したい。

くため、労働者である私たちが団結し、消防職場における今後の働き方を研究し、声を上げていかなければならない。

本研修会開催にあたって、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、参集人数を絞り、翌日にウェブ開催をするという新たな



くため、労働者である私たちが団結し、消防職場における今後の働き方を研究し、声を上げていかなければならない。

消防政策議員懇談会

5月11日
開催

2022年5月11日18時から18時45分に消防政策議員懇談会が開催された。新型コロナウイルスの影響などにより、3年ぶりに開催することとなった。同懇談会は、2019年3月に

自治労が消防職員の団結権回復をめぐし呼びかけ、賛同した110人の国会議員により発足した。現在、逢坂誠二会長をはじめ116人の国会議員により組織されている。さらに、今年度からは岸まき子参議院議員を事務局長として迎えることとなった。

「消防職員委員会制度の変革後」については、2018年9月に消防職員委員会の組織及び運営の基準の一部改正が行われたが、実際の運営がどうなっているかについて話をした。

「新たな課題」では、主に2つのことについて提示をした。1つ目は、定年延長制度についてである。加齢困難職種である消防職員の定年年齢の引上げ開始年が決定している状況で、検討を進めていかなければならないことに加え、現場の状況としてどのような課題があるのかについて話した。定年延長制度が始まった後、継続して協議し改善を図らなくてはならないことや、現在実施されて

る再任用制度の問題点についても提示した。2つ目として、新型コロナウイルス対策について。新型コロナウイルス感染症が蔓延し、疲弊している救急現場であっても、119番が入電したら病院と違い断ることはできない現実についても話した。また、新型コロナウイルスの影響により通常救急ですらも搬送困難となっている状況も伝えることができた。

今年度の全消協体制において、初めて議員懇談会を開催することとなった。その中で協力してくれられた。その中で協力してくれる国会議員に対し、しっかりと消防職場の問題や現実を伝えることで消防職場の環境改善へつながるよう、また団結権の回復をめざし活動を継続していきたいと考える。



「消防職員委員会制度の変革後」の現状について「新たな課題」の4本の柱を中心に話をさせていただいた。「消防職員の団結権回復に向けた取り組み」として「消防職員の団結権回復に向けた取り組み」として「新たな課題」では、主に2つのことについて提示をした。1つ目は、定年延長制度についてである。加齢困難職種である消防職員の定年年齢の引上げ開始年が決定している状況で、検討を進めていかなければならないことに加え、現場の状況としてどのような課題があるのかについて話した。定年延長制度が始まった後、継続して協議し改善を図らなくてはならないことや、現在実施されて

る再任用制度の問題点についても提示した。2つ目として、新型コロナウイルス対策について。新型コロナウイルス感染症が蔓延し、疲弊している救急現場であっても、119番が入電したら病院と違い断ることはできない現実についても話した。また、新型コロナウイルスの影響により通常救急ですらも搬送困難となっている状況も伝えることができた。

今年度の全消協体制において、初めて議員懇談会を開催することとなった。その中で協力してくれられた。その中で協力してくれる国会議員に対し、しっかりと消防職場の問題や現実を伝えることで消防職場の環境改善へつながるよう、また団結権の回復をめざし活動を継続していきたいと考える。

今年度の全消協体制において、初めて議員懇談会を開催することとなった。その中で協力してくれられた。その中で協力してくれる国会議員に対し、しっかりと消防職場の問題や現実を伝えることで消防職場の環境改善へつながるよう、また団結権の回復をめざし活動を継続していきたいと考える。

全消協第4回ユースStep Upセミナー

2022年3月8日、全消協第4回ユースStep Upセミナーが開催された。前回の第3回ユースStep Upセミナーに引き続きコロナ禍のため、ウェブのみでの開催となった。これまで実施したセミナーからのStep Upとして、今回は1部・2部と世代別にセミナーを分けた。1部では「協議会入会から5年以内を目安とした協議会経験が浅い方」を対象に実施した。また、2部では「現状、各県・ブロックにおいて青年・ユース部長を担っている方今後の協議会活動を担う可能性が高いユース会員」を対象に実施した。

本セミナーは第6期ユース部・女性連絡会が企画運営を行い、全国のユース・女性会員から1部では76人、2部では75人が参加し、総計151人が参加した。また、協議会が発足していない未組織消防の方もセミナーへ参加をいただき、我々の活動を紹介できるセミナーとなった。

1部・2部とともに冒頭、須藤会長より「コロナ禍のため、ウェブという限られた環境ではあるが、ユース世代で横のつながりを深め、知識を蓄え今後の協議会活動につなげてほしい」とのあいさつがあった。

1部は「協議会活動に必要な基本知識」を学習する場所とし、その内容は「組織の成り立ち・用語説明」「賃金について」「労働条件について」「SDGs」など多岐にわたる。消防職務そのものに結び付く事項や若い世代が関心を抱く内容が多く、参加者は熱心に聴講をしていた。2部は「今後の協議会活動の発展」を考へる場所とし、その内容を「自治労青年部と全消協ユース部との

連携について」「男女平等参画」「協議会におけるユース世代の役割」などに設定。グループワークを中心とした内容に、参加者からは熱い議論が展開された。

企画運営を行った永楽ユース部代表からは、「今回もウェブでの開催を余儀なくされたが、世代を分けた開催によりセミナー参加者数も増加しうれしく思う。また、ユース部幹事だけではなく、自治労青年部長や女性連絡会代表から講義をいただき他差別・女性連絡会との連携の必要性を更に感じた。今後も全国ユース・女性会員の意見を反映したより良い開催方法を模索し、継続した開催としていきたい。受講者が学んだ知識を各ブロックや県に持ち帰り、普及に取り組むことを願っている」とのあいさつがあった。

また、共同運営及び講義を行った吉永女性連絡会代表からは、「講義を担当させていただき、準備段階から自分自身の研鑽となった。グループワークでは、改めて相互協力・共通認識を持つことの必要性や業務にあたる仲間も色々な面で気をかけてくれることが分かった。セミナー全体を通して女性消防吏員がいらない本部でも、心身の不調を始め相談しにく

い悩みを抱えている方に気づく力周囲を気かける意識づけの一助となったのではないかと思う。セミナーは様々な角度からの講義が準備されていて『新しい風』を吹かせたのではないかと振り返りがあった。

参加したユース・女性会員から1部では「職場で各種手当を扱う担当にいたい。他の消防の手当の付け方や様々な手当の種類を聞くことができ、勉強になった」といった声や、「若手に対して非常に有意義な会であった。この規模なら年間複数回の開催や各ブロック幹事による出前講座のようなことも希望する。コロナ禍では有効な開催であったと感じる」という意見が出た。2部では「女性職員の本音が聞けて良かった。普段では聞きづらい話を聞くことができ、非常に参考になった」という声や「全国での協議会の現状、課題を聞くことができ、勉強になった。また、課題対策や現状実施している活動も聞くことができ、今後の参考にしていきたい」と「グループ討論は良いと思う。生の声意見が聞けたので今後も続けてほしい」との感想が寄せられた。

全消協ユース部は、今後もユース世代・女性消防職員との地位向上と職場環境改善の一助となるようユース・女性会員からの声に真摯に耳を傾けたセミナーとして継続して開催したい。

半鐘のふたま

今の日本で繰り広げられているのは「下流に転落しないための競争」である。そんな言葉を目にした。

私が生まれた時には、すでにハブル期が過ぎ、幼少から節約・儉約生活が当たり前として育ち、将来は公務員や手に職をつけてそれを活かすような仕事がいいと常々言われてきた。周囲を見ても、お金持ちになりたいとか、出世したいと思つよりも、生活に困らない安定した職に就いて、家族を大切に、慎ましく生活しながらも、小さなことに幸せを見出し、定年後も困らない生活をしたいくらいが目標にすらなっているように感じる。私から見た昔のように、当然のように正社員になることができ、就職後数年で結婚するというライフプランは、現代では決してスタンダードではない。今の日本では、新卒の時に職に就かなければ、その後、正規雇用されることが難しい上に、非正規雇用では生活が難しい。それに加え、近年では老後2000万円問題や、ウクライナ情勢による物価高、生活していく上で厳しい話題が多い。正社員になっても、働き続けられる保障はなく、定年まで平均した経済生活を送れる保障がないのが現在の日本であると思う。1990年代以降、人並みの生活を送れなくなるリスクと常に隣り合わせで生きていくのではないだろうか。

そんな時代や価値観の中で、公務員になった私たちは、自分たちは十分に恵まれているとしばしば感じがちである。よりよい職場環境をめざして協議会活動を行い、次世代の担い手を作ることは、相応の魅力がないと続いている。協議会活動はコロナ禍で活動の停滞が叫ばれているが、今までの殻を破り、時代の変化に置いて行かれないような新しい活動を模索し、「魅力ある協議会づくり」に努めなければならぬ。

全消協では、従前のような対面での活動が難しくなってきた以降、各種SNSアカウントの開設や、Zoomを用いたウェブ開催等、インターネットを活用した新たな取り組みを進めてきた。3年目に差し掛かって、個別相談の増加や、遠隔地や子育て世代の会員による参加の増加等、少しずつ成果が見えてきたように感じる。日頃から他者の声に耳を傾け、柔軟に意見を聞き入れる心を持ち続け、思いを形にしたい。

長谷川 亜純（北海道ブロック幹事）



「組織成り立ち用語解説」のスクリーンショット。参加者たちの顔がグリッドで表示されている。



この学習会は中国近畿・東海ブロック幹事で組織強化・拡大特別支援金を活用し、何か合同でできることないかというものがきっかけで、中近東ブロック会議でコロナ禍により停滞してしまった協議会活動の起爆剤的な契機

の運営に携わっていたいただき感謝申し上げる。この学習会は中国近畿・東海ブロック幹事で組織強化・拡大特別支援金を活用し、何か合同でできることないかというものがきっかけで、中近東ブロック会議でコロナ禍により停滞してしまった協議会活動の起爆剤的な契機

第2部は、日本アンガーマネジメント協会の福成三三様による「アンガーマネジメント」の講義が後悔しないために」の講義があった。アンガーマネジメントとは怒りにより後悔しないことを指し、怒らないことではなく、怒る必要のあることは上手に怒ることができ、怒る必要のないこと

2022年3月17日に中国近畿東海ブロック(以下、中近東ブロック)の合同学習会を完全ウェブ方式で開催した。この学習会を開催するにあたり、中近東ブロックの方々のもとより、全国から多数の参加をいただき御礼申し上げます。初めての試みにもかかわらず

中近東ブロックだけでなく全国各地から未組織等も含め合計130人の参加となり、大変規模の大きい学習会となった。また、中近東の各ブロックから選出された運営委員の方におかれては、業務やライフイベント等でお忙しいにもかかわらず、再三にわたり非番日、週休日等を活用し学習会に向けての運営に携わっていただき感謝申し上げます。

講義は2部構成で、第一部として岡山県新見市消防職員協議会の竹本様より「消防職員協議会の重要性」という題目で講義をしていただいた。新見市消防職員協議会の立ち上げに至るまでの経緯を当時の心境や出来事を分かりやすく、臨場感あふれる語り口で講義していただき、参加された方々にとつて大変貴重な時間になったと感じている。協議会結成前の新見市消防本部では、上意下達の職場環境が根強く、パワーハラスメントは日常茶飯事で、消防学校入校時の食費は実費、貸与品は先輩の御下がり、出勤手当などの特殊勤務手当は支給されていないとのことだった。そのような職場環境の中、自分と同じような思いを先輩職員にはしてほしくないの思いから協議会立ち上げに向け奮起したことだった。協議会を結成した当初は、上層部から不当な扱いを受け、気持ちが折れそうになったそうだが、結成に向けて協力して

くれた後輩たちを思い出し、奮起し、現在では会員数が過半数を超え、結成前にあった諸問題のいくつかは改善できたとのことである。この講義を通して、参加者の方々は全国には今もなお、悩み、苦勞している仲間がいることを知れたのではないかと思う。講義の終わりに、「当時はとても苦勞したが踏みとどまってよかった」「苦勞した甲斐があった」と話していただいた。

線引き方法などを講義していただいた。職員間での認識のずれを知ること、お互いの考え方を理解し合うことでハラスメントを

来年も会員の皆様にとって有意義な学習会ができるように学習会の最後に実施したアンケート等を生かし、今後の中近東ブロックを盛り上げていきたいと思う。また、協議会の必要性を感じてもらえるよう新たな取り組みにも挑戦していけたらと考えている。この度は、中近東ブロック合同学習会にご協力いただき改めて感謝申し上げます。

中近東ブロック 合同学習会を開催



は怒らないようになるという怒りのコントロール方法を学ぶことができた。最近怒ったことを思い出し、分析すると受講されたほとんどの方が怒るほどではないと感じた結果となった。イラっとした瞬間、一旦時間を取り、考えることで感情の高ぶりを抑え冷静に物事をとらえたり、冷静に発言できるようなるといった練習方法や、怒るべきこと・怒らなくていいこと

少しでもなくすきっかけができることは大変参考になったと思う。アンガーマネジメントに関する入りの講義ではあったが多くを学ぶことができ、有意義な学習会となった。

**全消協では
ホームページのほか、
Facebook・Twitter・
Instagramを
開設しています!**



今後の予定
2022年9月4日
第46回定期総会 (広島市)